



景観行政団体にみなかみ町移行 ～景観計画の策定に向けて～

みなかみ町 地域整備課

みなかみ町は、平成30年10月20日に景観行政団体へと移行しました。
今後は、以下の方針で景観計画を策定していきます。

■ 目的

みなかみ町は、谷川岳を中心とした山並みと、その斜面に広がる深く濃い森林に抱かれ、大水上山を水源地とする利根川や赤谷川、谷川などの清流が軸となって形成された美しい自然に恵まれ、三国街道の宿場町として往時の面影を色濃く残す街並みや、養蚕の育成のための屋根形状が特徴的な古民家など、みなかみ町の生い立ちや成り立ちを今に伝える、多くの歴史的景観も残されています。

こうした中、本町は、平成29年6月に「ユネスコエコパーク」へ登録されたことを受け、地域の自然環境の保護・保全を図りつつ、それら自然環境や天然資源を持続可能な形で活用することで、地域の社会経済的な発展を図ることを目的に、人間社会と自然環境の共生を実践するモデル地域としての役割が期待されています。

「みなかみ町景観計画」は、これまで受け継がれてきた豊かな自然環境と、それを拠り所としてきた私たちの生活・文化が調和・共生する風景を育み、質の高いまちづくりの実現を世界に発信するため、本町にとって望ましい景観形成を進めるための施策の指針として策定するものです。

■ 位置づけ

みなかみ町のまちづくりの上位計画である「みなかみ町総合計画」及び「みなかみ町都市計画マスタープラン」と整合を図りながら、景観部門の個別計画として、住民の意見を反映させながら計画を策定します。

■ 景観づくりの理念

みなかみ町の景観づくりは、「全国どこにでもある景観」を追従するのではなく、「人と自然の共生を実現するモデル地域」としてのみながみが有する固有の魅力を守り・さらに磨きをかける景観づくりを目指します。

このため、山並みへの眺望や豊かな森林、利根川の清流などの自然的景観のほか、三国街道の宿場町としての歴史・文化を残す景観などの本町の財産を固有の魅力と捉え、それらを守り、活かしてさらに魅力を高めていくことを理念とします。

■ 将来像の設定

生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的とした「ユネスコエコパーク」の理念や、「みなかみ町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げられる「これまで受け継がれてきた豊かな自然環境と、それを拠り所としてきた私たちの生活・文化を、人と自然の共生を実現するモデルとして世界に発信する」という考え方に基づき、「いにしえから受け継がれる雄大な自然と風情を活かし人々に癒やしと安らぎをもたらす景観づくり」を設定するものとします。



たくみの里 水車



利根川諏訪峡



名胡桃城址

